

令和2(2020)年度学校評価

教育目標	自立と社会参加を目指し、一人一人の個性や教育的ニーズに応じた教育により、社会の中で主体的に生きることができる健やかで心豊かな児童生徒を育成する。				
指導方針	「チームなど」として、一人一人の児童生徒を的確に把握し、愛情をもって根気強く指導する。				
生活目標	明るく つよく 美しく				
具体目標	「豊かな心と健やかな体を育む」「確かな学びを育む」「自ら進んで取り組む力を育む」「人や社会との関わりや変化の中で対応する力を育む」				
目指す学校像	教師の温かさと前向きさがあふれ、児童生徒が毎日の登校を楽しみにする学校				
	児童生徒が生き生きと活動できる学校	保護者が安心できる学校	教師が一人丸となる学校	地域から愛される学校	
令和2年度重点目標	(1) 合理的配慮に基づいて、児童生徒一人一人の力が可能な限り発揮され、小中高訪問寄宿舎一貫した魅力ある指導内容と指導方法の工夫に努め、「一人一人が分かって動ける」授業づくりを実践する。	(2) 児童生徒が安心して学べる学習環境づくりと、防災安全教育の実践を行う。	(3) 教職員相互の信頼と協働体制をもって指導に臨み、明るく意欲にあふれた学校づくりに努める。	(4) 保護者や関係諸機関との情報交換や連携を密にし、心の通う学校づくりに努める。	(5) 本校の教育についての情報を積極的に発信し、地域と連携した特色ある学校づくりに努める。
評価項目	①校内研究の充実 ・「一人一人が分かって動ける」授業づくりの実践 ②キャリア教育 ・小中高訪問寄宿舎の系統性のある指導内容と指導方法の工夫 ・キャリア教育の視点をもった指導の実践 ③合理的配慮 ・児童生徒の実態把握 ・保護者のニーズの把握 ・合理的配慮に基づいた学習環境及び指導の工夫	①防災安全 ・災害等対応マニュアル研修による内容の理解 ・各種避難訓練の実践及び課題の考察 ②いじめ防止 ・本校のいじめ防止対策基本方針の理解 ・いじめ防止研修の充実と積極的参加 ・いじめを認知する意欲の向上と適切な初期対応 ③危機管理 ・ヒヤリハット事例の活用 ・危機管理校内研修への積極的参加 ・報告、連絡、相談の徹底 ④新型コロナウイルス感染症対策 ・学習保障	①風通しのよい学校 ・教職員の協働体制(連携を図った職務遂行) ・コンプライアンス意欲の向上(不祥事防止研修への積極的な参加等) ②自己研鑽(研修) ・在宅勤務中の自己研鑽など ・研修会の積極的参加 ③働き方改革 ・業務時間の適正化 ・業務改革のための実践 ・心身の健康の保持・増進	①保護者との連携 ・個別の指導計画の作成 ・連絡帳や電話連絡等による保護者との情報共有 ・保護者懇談等での共通理解 ②関係機関との連携 ・サービス担当者会議への協力(放課後等デイサービス) ・施設(たかはら学園、子どもの家)との連携 ・進路に関する関係機関との連携 ・児童生徒の生活に関する関係機関との連携	①情報発信 ・ホームページの内容の充実 ・コロナ禍における学校間交流や地域交流の工夫 ②公開研修、各種作品展への出品 ③センター機能 ・早期教育相談 ・巡回相談による各校への相談支援 ・高等学校の通級指導に関する相談支援 ・特別支援教育学習指導研修の受け入れ(小・中学校) ・福祉、医療、労働関係機関等との連携による就労移行支援
評価の観点	①-1 グループ研究では、指導内容や指導方法を教員間で共有して理解を深めることができたか。 ①-2 授業づくりの視点を意識しながら、グループ研究で深めた指導内容や方法を実践に生かすことができたか。 ①-3 校内研究を通して、児童生徒の学びを充実させることができたか。 ②児童生徒の将来像を意識し、自立と社会参加を目指した授業や行事、活動を展開することができたか。 ③児童生徒の障害の特性や具体的場面・状況に応じて配慮することができたか。	①災害等対応マニュアルの内容の理解や各種避難訓練を通して防災意識を高めることができたか。 ②いじめを積極的に認知し、教育的解決に向けて速やかに対応しているか。 ③ヒヤリハットを繰り返さないための工夫を施すとともに、ヒヤリハット事例を活用して安全管理の意識を高めることができたか。 ④児童生徒の安心安全を念頭に、感染防止策を施し、限られた環境の中で工夫して指導することができたか。	①教員としての規範意識を常にもち、他の教員と連携を図りながら学級経営や校務分掌等の学校運営に携わることができたか。 ②研修会参加や在宅勤務中の自主研修等を仕事に生かす(生かす工夫をする)ことができたか。 ③心身の健康を考え、時間管理の実践(時間外勤務の減少等)に積極的に取り組むとともに、効率的な業務遂行を心がけることができたか。	①保護者の気持ちにより添うとともに、指導(手立)に関する理解の促進に努め、家庭と連携して指導を行うことができたか。 ②関係機関との連携、情報の共有を図り、児童生徒及び保護者への総合的な支援の一助を担うことができたか。	①児童生徒が社会とのつながりを意識し、自信をもって自立と社会参加の一助となる活動の工夫に努めたか。 ②周辺地域や児童生徒を取り巻く環境に対する特別支援教育の充実と本校への理解の促進に努めることができたか。
評価結果	A	A	B	B	B
評価基準	A:十分達成できた B:ほぼ達成できた C:どちらかという達成できなかった D:達成できなかった				
評価の理由分析	①研究グループごとに振り返り観点を活用しながら授業の振り返りを行い、授業力向上とともに、児童生徒の学びの充実を図ることができた。また、感染対策をした上で、児童生徒一人一人が自主的に取り組める行事の立案・実施ができた。 ②新型コロナウイルス感染症の影響で、キャリア教育に関する研修が十分に実施できなかった。しかし、中学部については、新学習指導要領に伴い「職業・家庭」を新たに設定した教育課程を編成することができた。 ③新学習指導要領の内容と学部の実状を踏まえて教育課程の見直すことができた。 小学部では、児童の興味関心を生かした学習内容や一人一人が活躍する場面の設定ができた。また、高等部では、視覚支援教材の充実を図り、生徒が主体的に取り組む場面が増えた。	①避難場所の分散化等感染防止策を講じながら避難訓練、引き渡し訓練が実施できた。 ②いじめ発生から、初期対応、レベル区分決定までの流れを明確にし、実施できた。 ③ヒヤリハット事例について危機管理委員会にて検証し、危機管理校内研修を実施した。また、校務分掌におけるヒヤリハットなど、危機管理意識の幅を広げることができた。 ④新型コロナウイルス感染症対策に関するプロジェクトチームを立ち上げ、組織的に対応できた。また教員一人一人が感染防止と学びの保障の両立を意識して指導に当たることができた。	①教員の規範意識を高めるために不祥事防止研修を実施した。 ②新型コロナウイルス感染症の影響で、従来の研修会を立案できなかったり、外部研修会への参加が困難だった。そこで、教員個々の専門性を生かした「なとく名人バンク」を立ち上げ小集団による研修会を実施し、教員の専門性向上の一助とした。 ③年間を通して時間外勤務が月80時間を越える教員はいなかった。また、ライトダウンデーに積極的に取り組んだ。	①新型コロナウイルス感染症の影響で、授業参観や個別の指導計画の評価が年1回のみとなった。休業中は、定期的な家庭への連絡、ホームページによる情報発信、授業再開に向けた丁寧な取組など、常に保護者の心情に寄り添うことを念頭に取り組んだ。また、年度末の授業参観が実施できなかったため、授業映像などを用いて、工夫を凝らした保護者懇談を実施した。PTA活動については、例年どおりの活動はできなかったが、運動会の競技補助やなど祭のリサイクル制服の配布等次年度につながる活動の工夫ができた。 ②進路相談会や個別のケース会議等では、関係機関と連携しながら実施することができた。また、新型コロナウイルス感染症の影響で、実習先の受入が難しかったが、企業や福祉施設と連携し、受入方法を検討しながら実習を行うことができた。	①新型コロナウイルス感染症の影響で、地域間交流は高等部の大山ふれ愛・花いっぱい運動を回数減らし実施したのみ。学校間交流は間接交流で実施した。中止となった「伸びゆく子どもたちの作品展」の代替としてホームページや校内での作品展、ユニクロ作品展(常設)の充実を行った。ボランティアに関する取組は実施できなかった。 ②矢板市の幼保小巡回相談において、本校の実践を伝えることができた。また、黒羽高校の通級指導教室では、担当教諭の相談にのることができた。特別支援教育学習指導研修は、新型コロナウイルス感染症の影響で1回のみ受入となったが、研修生からの質問等に丁寧に対応することができた。
評価結果に基づく今後の改善方策等	①研究グループの成果を研究紀要にまとめると共に、校内研究報告会を実施し、研究成果を教員間で共有して、更なる指導力向上と児童生徒の学びの充実を目指す。特に、今年度の取組をベースに、集団のなかでの児童生徒一人一人の活動に重点を置き、集団を意識した指導の充実を図る。行事については、今年度実施した形態を参考に、更に児童生徒一人一人が活躍できるよう工夫する。 ②集団で集まることのできない場合、情報伝達や研修の工夫を検討する。また、小中高の系統性を考慮しながら、高等部の教育課程の見直しを進めていく。 ③更なる児童生徒の主体性を導くための実態把握や目標設定、互見授業や研修の充実を図る。	①児童生徒が主体的に防災意識を高めるような取組(防災教育週間、防災グッズや避難生活体験等)を計画する。 ②いじめの認知について、教員の意識が一定の水準まで高めることができるように引き続き啓発に努める。 ③継続してヒヤリハット事例の活用と検証、校内研修の充実を図り、教員の危機意識を高める取組を行う。また、報連相の徹底を図っていく。 ④来年度も引き続き、新型コロナウイルス感染症の状況を見極めながら、組織的対応と教員の意識向上を図っていく。	①定期的に不祥事防止研修を実施すると共に、日常的に教員同士が連携を図り、意見交換がしやすい職場環境の醸成を図る。 ②引き続き、「なとく名人バンク」を活用した研修会を実施し、教員の専門性向上に取り組む。 ③時間外勤務月45時間以内を目標値に設定し、更なる「子どもたちに向き合う時間の確保・充実」を目指す。	①今後も新型コロナウイルス感染症の状況を見極めながら、本校の教育活動の保護者への理解推進を図る。PTA活動については、感染対策を考慮した活動計画を立案し、保護者が主体的に活動できるように係教員が関わっていく。 ②引き続き、関係機関との連携を取りながら相談会やケース会議を実施する。また、今後の状況を見極めながら進路先や実習先の開拓を行う。児童生徒の生活に関しては、引き続き入所施設や放課後等デイサービス施設、行政等の関係機関と連携を図る。	①感染症対策をしながらの交流実施に向けて、地域と連携を図り検討していく。ボランティアについても感染状況を鑑みながら、実施を検討する。 ②幼稚園保育園の巡回相談では、早期教育相談利用の児童に関する情報を共有し、スムーズな情報交換を行う。また、通級指導教室については、引き続き高校のニーズに応じた指導助言を行う。特別支援教育学習指導研修については、年間2回の研修が計画的に実施できるように調整を図る。
学校関係者評価	<p><評価結果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら重点目標(1)に関する校内研究「分かって動ける」授業づくりについて、小中高訪問寄宿舎の12年間を見通した系統性のある指導の充実が図られている。 ・新型コロナウイルス感染症対策を取りながら、工夫した教育活動を行っている。コロナ収束後、日常生活に戻った際に、今までの工夫し進歩した教育活動の何を残していくのか、吟味する必要がある。 ・複雑多様化する社会において、児童生徒が自らの経験で社会を生き抜く力が必要になってくる。学校はさらにきめ細かな児童生徒の個別の配慮が必要になってくる。 ・コロナ禍において、感染防止対策を徹底しながら、児童生徒に必要な学習を工夫し、実施することができた。保護者の間では、学校が一番安心という意見が出ている。 <p><評価結果に基づく今後の改善方策等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大の状況を勘案しながら、児童生徒の主体的な動きを導き出すための授業づくり、教員の指導力向上の取組を継続して実施する。 ・小中高訪問寄宿舎12年間の系統性をもち、社会人としての将来像をイメージした指導の充実を図る。 ・地域力を活用し、社会に必要とされる人材の育成に取り組んでいく。 ・GIGAスクールの活用における学習の幅を広げる。 				